「くまの木」ヒトとムシの楽園プロジェクト

会報ムシプロ４号　　２０１７年６月

ゴマダラチョウ（タテハチョウ科）

目次

1. ６月活動について・・・・・・・・・・・２

2. ムシプロだより・・・・・・・・・・・・３

3. 自然の愉しみ方（春）・・・・・・・・・ ４

4. 事務局より・・・・・・・・・・・・・・５

今月の表紙・・・・・・・・・・・・・・・５

1.　６月１０日（土）、１１日（日）の活動について

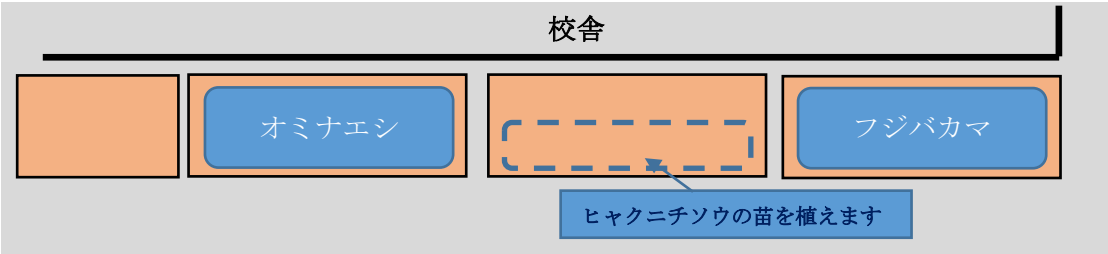
６月１０日（土）、１１日（日）の活動の概要です。

① 作業の内容

花壇の整備を中心に行います。また、ビオトープの雑草取りを行います。

■　４月の活動でフジバカマの株の移植及びオミナエシ（１株）、カラミンサ（４株）の苗を植えました。苗が十分に育つように雑草取りをします。

■　ムシトリナデシコの咲き終わった区画にヒャクニチソウの苗を植えます。



② 観察の見どころ：『雨に唄えば』（あめにうたえば：*Singin' in the Rain*）

５月の下旬から空気が湿気をおびてきます。この湿気を待っている生き物が「モリアオガエル」です。産卵のために森から出てきたモリアオガエルを観察します。産卵は、池の水面の上に伸びている木の枝や水面から出ている水草の茎で行われます。目立つ場所で危険を顧みず、メスのまわりに数頭のオスが集まり木の枝に産卵する様子に感動します。

また、観察場所には、シュレーゲルアオガエルやカジカガエルも生息しています。モリアオガエルとシュレーゲルアオガエルの鳴き声の違いやカジカガエルの美しい鳴き声を愉しむことができます。他にも、ゲンジボタル、ゲンゴロウ、タガメ、ヌマエビなどを見ることが出来ます。

雨の季節を喜び、唄う生き物たちを観察して、私たちも雨の季節を愉しみましょう！　※雨具を忘れずに用意してください。

モリアオガエルの産卵

モリアオガエルの卵

モリアオガエルのオス

ゲンジボタル

ゲンゴロウの交尾

カジカガエル

2.　ムシプロだより

① スタッフの近況

蝶に詳しく、オオムラサキやギフチョウの飼育・繁殖に取り組んでいる吉田さんの近況です。また、カメラの腕前もプロなみで鳥や鉄道の素晴らしい写真も私たちを楽しませてくれています

白馬三山

ギフチョウ（ノーマルタイプ）

ギフチョウ（イエローバンドタイプ）

　蝶の活動が活発になって来ましたので、ここ数年連続で観察に出かけている信州の白馬山麓へ今年も行って来ました。山での積雪量が多かったようで、ギフチョウの発生には少し早かったようですが、数頭を見ることができました。

　ここのギフチョウは、**「ノーマルタイプ」**と翅の外周部（縁毛）のすべてが黄色になる**「イエローバンド」**と呼ばれるきれいタイプが発生しています。
また、ヒメギフチョウとの生息境界線の接点でもあり、非常に楽しめるところですし、残雪の白馬三山を見るだけでも癒されるところです。

**　天気の良い日には、毎日のようにカワセミを撮影しに行っている真岡市の井頭公園では、オオムラサキの幼虫が順調に育っていて、終齢になっていますし、アカボシゴマダラやアサギマダラも飛んでいました。これからが、ますます楽しみな季節になって来ました。**
（写真・文　吉田　義秀）

3.　　自然の愉しみ方（春）

● ムシたちの春（フジ棚の番人）

フジ棚の前でホバリングするクマバチのオス

フジの花の蜜を吸うクマバチのメス

桜の花が終わると季節の花は、フジの花に移る。フジの花は、桜と共に日本人に親しまれている花だ。公園、緑道、校庭にフジ棚が設置されていて沢山の人がフジを観賞しに訪れる。
クマバチはフジの花を訪れるムシの代表だ。ズングリした体、黒と黄色の配色、大きい羽音により獰猛なハチと思われている。しかし、実際には花の蜜や花粉を集めるおとなしい蜂だ。フジの花を観賞していてもこちらを威嚇したりすることはない。
クマバチのオスとメスの見分け方は、簡単だ。開けたところでホバリング（静止飛行）しているのがオスだ。オスは、近くを通る他のオス、他のムシなどを追い払う。ときには、鳥にさえ向かっていく。実に精力的で、見ていて飽きない。また、人がいても警戒しないことから十分近寄れるので観賞の対象としてお薦めだ。
（写真・文　西野　孝法）
追記：オスを採集するとき、刺されないとわかっていても躊躇してしまう。未だ修業が足りないようだ。（笑）

オスとメスの見分け方　顔に注目

巣づくりをするメス

5月27日、巣の様子を見に行くと、新成虫の顔が見えました

オスの特徴

・開けたところでホバリング（静止飛行）している（左）。

・目（複眼）が大きい。（左）

・目と目の間に黄色い三角形の模様がある。（左）

⇒「鼻メガネ」をかけているのがオスと覚えよう！

4.　　事務局より

会報の「**表紙**」と「**自然の愉しみ方**」で紹介した画像をイメージゲートウエイに登録しています。Word に貼りつけてある画像より綺麗です、ご覧ください。アドレスは以下のとおりです。パスワードは、必要ありません。
https://opa.cig2.imagegateway.net/s/cp/DMCYuTBGLSE
画像はダウンロードできます。

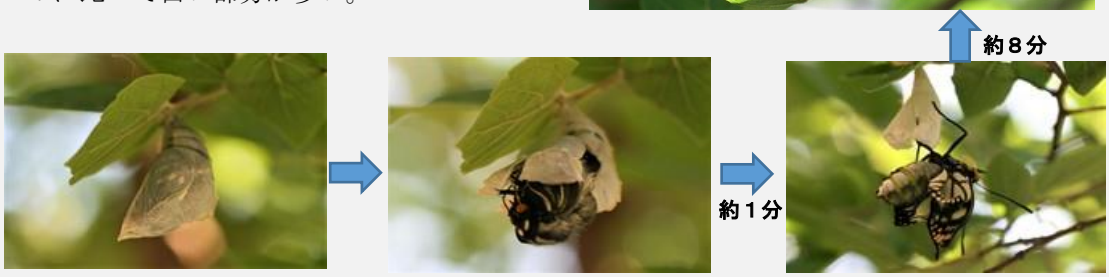
2017 年６月１日発行
発行：　くまの木ヒトとムシの楽園プロジェクト
編集責任者：　西野　孝法
〒262-００２６　千葉県　千葉市　花見川区瑞穂３-３-２６
TEL: 090-9327-5606
Ｅメール：harukan@ac.auone-net.jp

今月の表紙

ゴマダラチョウ（タテハチョウ科）

・羽の色は白黒で地味だが、橙色の複眼と口吻が印象的だ。

・出現の時期により、羽の裏の模様に違いが見られる。春に羽化したものは、夏に羽化したものに比べて白い部分が多い。



５月中旬、蛹の中に羽の模様が透けて見えるようになった。羽化が始まる合図だ。蛹の殻が割れて体全体が出る（蛹の殻が割れて体全体が出るまで約１分）。その後、蛹の殻にぶら下がり羽を伸ばす（蛹の殻にぶら下がり縮んでいた羽が伸びるまで約８分）。体全体が硬くなり飛び立つまで暫く（約４時間）かかった。

時間の経過とともに日が高くなりエノキの葉からの木漏れ日が、まるでスポットライトのようにゴマダラチョウを照らし始めた。観察を始めた時は、午前６時だったが、時計を見ると１１時を過ぎていた。夏空という舞台で舞うためのドレスを整えたゴマダラチョウは、木漏れ日の中で輝いていた。（写真・文　西野　孝法）